

平和非核都市宣言40周年事業



## 令和5年度 親子広島バスツアー

～平和・非核学習の旅～

# 感想文集

令和5年(2023年)8月5日～6日



原水爆禁止西宮市協議会  
西 宮 市



# も く じ

感想文集発行にあたって

西宮市長・原水爆禁止西宮市協議会会長	石井 登志郎	………… 1
高齢化する被爆者に代わり平和を語り継ぐ人になって欲しい		
西宮市原爆被害者の会	武居 勝敏	………… 2
親子広島バスツアーに参加して	榎並 息吹	………… 3
親子広島バスツアーに参加して	榎並 さをり	………… 4
親子広島バスツアーに参加して	神野 絢音	………… 5
親子広島バスツアーに参加して	神野 直子	………… 5
初めての広島	川島 早絢	………… 5
再認識	川島 英嗣	………… 6
未来へつないでいく	黒木 秀幸	………… 7
広島空に想いを馳せて	黒木 研一	………… 8
旅行にあって気付いたこと・経験したこと	常盤 海	………… 9
ツアーに参加して思ったこと	常盤 蒼空	………… 9
親子で平和について考える機会をいただいて	常盤 望	…………10
広島県へ行って感じたこと	西尾 実咲	…………11
バスツアーに参加して	西尾 佳奈	…………12
親子広島バスツアーに参加して	坂東 三嘉	…………13
広島バスツアーに参加して	坂東 総子	…………14
バスツアーに行って	堀下 侑祐	…………15
親子広島バスツアーに参加して	堀下 望美	…………15
家族で平和学習	山口 璃暖	…………17
家族で平和学習	山口 潤透	…………17
家族で平和学習	山口 瑠海	…………18
令和5年度 親子広島バスツアー行程表		…………19

## 感想文集の発行にあたって



西宮市長

原水爆禁止西宮市協議会会長

石井登志郎



令和5（2023）年は西宮市が平和非核都市を宣言して40年目となる節目の年です。

本市は昭和58（1983）年12月10日に県内でもいち早く「平和非核都市宣言」を行い、平和を愛する社会をはぐくみ、築くことを誓いました。また平成22（2010）年には、平和首長会議に加盟し、国内外の都市と連携して核兵器のない平和な世界の実現への取り組みを進めているところです。

この「親子広島バスツアー」は、平和の大切さについて親子で考えていただく機会として、原水爆禁止西宮市協議会と市が、昭和63（1988）年より毎年実施しております。

（令和2年・3年は、新型コロナウイルスの感染症の影響によりやむなく中止）。

今回で34回目となる「親子広島バスツアー」では、原爆ドームや広島平和記念資料館の見学、平和記念式典への参列などを通して、改めて戦争や原爆被害の悲惨さ、平和の大切さを考えていただけたのではないのでしょうか。

戦後78年が経過し、戦争を体験された方が高齢になられている現在、次世代へ平和を継承していくために、過去を学び、知る努力をしていくことが必要です。

「親子広島バスツアー」に参加された皆さんがツアーの2日間で得た経験や思いをそれぞれが見たまま、感じたまま多くの方に伝えていただきたく、この文集を発行いたしました。この文集を手にとられた方々が、核兵器の廃絶、恒久平和の実現に向けて、共に歩んでいただけることを切に願います。



市役所前での出発式

## 高齢化する被爆者に代わり平和を語り継ぐ人になって欲しい

西宮市原爆被害者の会会長 武居 勝敏

私は「親子広島バスツアー」案内役として5回目の参加。人気のこのツアーは169家族が応募。今年は宿泊施設が思うように確保できず22名10家族の参加となりました。当選率16.9分の1は一工夫要りますね。せつかく平和を学ぶ機会にと応募されたご家族には申し訳ないことです。同行は西宮市職員が2名、西宮市原爆被害者の会より1名です。

8月5日午前8時半、西宮市役所前で出発式を行い岩崎副市長のご挨拶の後、広島へ向かって出発。車内では自己紹介と参加の抱負、DVD鑑賞、被爆体験講話、語り部などを行いました。午後2時半過ぎ平和記念公園到着。原爆の子の像、原爆ドーム、島外科病院（爆心地）、被爆アオギリ、原爆資料館を見学。原爆の子の像では、折り鶴ブースに参加者や西宮市民が折った千羽鶴を親子で捧げました。

夜は被爆体験記と原爆詩の朗読会。国立広島原爆死没者追悼祈念館から派遣された方の朗読を聞き、子ども達は気に入った原爆詩を朗読しました。

8月6日、朝食を済ませ6時40分ホテルを出発。会場に到着すると、世界からの参列者や遺族で慰霊の一色。ツアー参加者は、式典会場の舞台に近いテント下一般席最前列付近に座って参列しました。

参加国は過去最高の111カ国、参列者は約5万人。

午前8時式典開始。原爆死没者名簿奉納、8時15分原爆投下時刻に合わせて黙祷、平和の鐘が鳴らされ死没者を追悼。続いて松井広島市長の平和宣言。次にこども代表の「平和への誓い」。小学6年生女子と5年生男子の純真で心の底から平和を願うスピーチに、盛大な拍手が送られました。

岸田首相、湯崎県知事、国連事務総長代理と挨拶が続き、式典終了。

式典終了後は自由行動となり、午後1時平和公園出発。6時半西宮市役所前に無事到着しました。

ロシアのウクライナ侵攻で、核兵器の使用をちらつかせる不安な世界情勢。

1万2千発もの核兵器がある限り、「地球存続の危機」は未来へと続きます。

日本被団協（日本原水爆被害者団体協議会）はノーベル平和賞に4度ノミネートされました。「二度とあの悲劇を繰り返してはならない、ふたたび被爆者をつくるな」と世界へ訴え続けてきた被爆者の平均年齢は85歳を超えました。遠からず被爆者のいない日が来ます。皆様には「高齢化する被爆者に代わり平和を語り継ぐ人になって欲しい」と切に願います。



原爆ドーム前での記念撮影

## 親子広島バスツアーに参加して

榎並 息吹

この度は、親子広島バスツアーに参加させてもらい、本当にありがとうございました。僕は広島には一度も行ったことがなかったので、今回のバスツアーで広島のいろいろなこと、物、歴史を知れてよかったです。そして、平和記念式典に参加させていただき、ありがとうございました。そして、僕が体調が悪かった時には、助けてくれてありがとうございました。

このバスツアーで、新しい友だちができてよかったです。そして、バスの中では武居さんが戦争のことをいろいろお話してくれて、すごくためになった時間でした。資料館に行った時に、あまりの行列のせいで、ゆっくり展示を見られなかったことが、とても残念でした。機会があれば、もう一度参加してみたいと思いました。

いちばん印象に残ったのは、武居さんがおっしゃっていた、「平和は創るのは難しいが、壊すことは簡単である。」という言葉です。

僕は、このバスツアーに参加して、とてもいい経験になったと思います。次の参加者の皆さんにも、戦争の悲惨さを知ってもらいたいと思います。



折り鶴の奉納





原爆ドーム

### 親子広島バスツアーに参加して

榎並 さをり

実は、私はこのバスツアーに、11年前、当時小学6年生だった長女と参加していました。

前回の参加時に非常に衝撃を受けた、朗読会の冊子の最初に載っていた

「げんしばくだんがおちると

ひるがよるになり

ひとはおばけになる」

という詩に再び出会い、知ってる詩だなと思いつつも、11年たっているいろいろと忘れてしまっていたこともあり、改めて衝撃を受けました。原子爆弾について、子どもの言葉で書かれた、シンプルながらもこれほど原子爆弾の恐ろしさを的確に伝えている詩は他にあるでしょうか？

そして、同じくらい印象に残っている言葉に、武居さんがバスの中でおっしゃっていた「平和は創るのは難しいが、壊すことは簡単である。」があります。

また、今回はいっしょに参加した次男の体調があまりよくなかったので、平和記念式典後は、武居さんのガイドによる碑めぐりをあきらめて、広島原爆死没者追悼平和祈念館内で行われていた企画展『空白の天気図ー気象台員たちのヒロシマ』を見学しました。原爆投下直後、大けがをしながらも任務を成し遂げようとする広島地方気象台員たちの奮闘の様子や、翌月広島を襲った枕崎台風による甚大な被害についての説明などがありました。これまで漠然と知っていたヒロシマの原爆についての、新しい切り口からの知識が得られたことは、とても有意義でした。

最後になりましたが、このたびのバスツアーでは、次男がたびたび体調をくずし、たくさんの方々にご迷惑をおかけしました。この場をお借りして、おわび申し上げます。

## 親子広島バスツアーに参加して

神野 絢音

私は、戦争はしてはいけないと思いました。

なぜかという、平和記念資料館を見学したときに、ぼろぼろの服、灰になったお弁当箱や死のはんてんが出た兵士の写真などを見たからです。原子ばくだんが落ちた時の熱線の温度が 3,000 度～4,000 度もあったから、人も物も鉄やガラスもとけるのだな、と思いました。

他にも資料館の入り口には、平和かんし時計があって、原子ばくだんが広島に落ちて、見学した 2023 年 8 月 5 日で、26,488 日、最後のかくじっけんから 688 日で、最後のかくじっけんから 2 年経っていないことに、おどろきました。私は、かくへいきと戦争がこの世から無くなり、平和になればいいのになあと思いました。

## 親子広島バスツアーに参加して

神野 直子

今回、娘や私にとって初めての広島で、私自身、広島への理解も少なかったと思います。そんな私でも、広島に向かうバスの中で、西宮市原爆被害者の会の武居さんのリアルなお話を伺い、バスが広島に着く頃には、1945 年 8 月 6 日に思いを馳せ、そのまま平和記念資料館を見学することができました。

他にも、原爆投下の目標となった相生橋を始め、原爆ドームや数々の慰霊碑など、武居さんのガイドを聞きながらの見学は、個人で訪れるよりも濃い学びの機会となりました。

行程が進む中で、娘の成長を感じることや、これまでどこか遠い話だと思っていた広島の出来事を、自分事のように考えることができ、良かったと思います。まだまだ知らないことも多く、今回の経験をきっかけに、また広島を訪れ、子ども達と平和について考えていこうと思います。

## 初めての広島

川島 早絢

今回初めて広島に行きました。

原爆ドームや広島平和記念資料館も行きました。

小学 6 年生の修学旅行で広島に行ったお兄ちゃんに「資料館怖かったよ」と言われたけど、私は大丈夫だと思っていました。



でも資料館に行ってみると、こんなにすごいことになるのかと驚きました。火傷で皮膚が垂れ下がったりその火傷で目が見えなくなった人を見て可哀想でした。鉄板・自転車がぐちゃぐちゃになったのや衣服がボロボロになったのを見て、爆弾は威力がすごいと驚きました。

夜の朗読会の話で、小学3-6年生は学生疎開をして中学生は建物疎開して働いていたと聞いて戦争中は子どもも忙しいと思いました。

2日目に広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式のこども代表の言葉を聞いて、やっぱり戦争は絶対ダメだと思いました。

外国からもたくさんの方が来ていたので、他の国の人も原爆について知りたいのかなと思いました。

## 再認識

川島 英嗣

戦争のこと、原爆のこと、平和のこと。今まで聞いたり考えたりしてきたことが無かった訳ではないのですが、今回参加をさせて頂いたことで自分の中で、それらに対する意識が大きく変わった気がします。

折り鶴の奉納を実際にすることで、世界のたくさんの人々が平和を願っていることを実感しました。

広島の平和記念資料館を訪れるのは3回目なのですが、バスの中で武居さんのお話を聞いた事により、展示されている資料が、それぞれの持っているストーリーを心に刻んでくれました。

小学4年生の娘と参加をさせて頂いたのですが、娘も途中から分からないことを質問してくるようになりました。おそらく皆さんの話を聞いていて、理解がしたくなったのだと思います。その説明を娘にしていることで、自分の頭の中もこれまでとは違う感じ方になったのだと思います。

夜にはホテルで朗読を聞かせて頂きました。これは私の人生で初の体験になりました。

耳だけで聞かせて頂く事で、朗読をして頂いている状況が頭の中で映像として出てきました。戦争はなんて酷いことなんだと、心底思った瞬間でした。

そういう経験をさせて頂いた後での、記念式典への参加でした。

1分間の黙とうがこんなにも短く感じられたことはありませんでした。一緒に行っている娘も同じことを言っていました。

親子で一緒に参加をさせて頂くことで、親である自分も原爆・戦争・平和について深く考えるきっかけを作ってくれたと思います。戦争を経験していない自分ですが、自分の子どもも含めて次の世代に語りついでいかないとダメだと痛切に感じました。

今回は参加をさせて頂き、ありがとうございました。自分の子どもへはもちろんです、自分のできる範囲で戦争や原爆のことを口に出して話をしていきたいと思っています。

## 未来へつないでいく

黒木 秀幸

ぼくは、親子バスツアーに参加して初めて広島に行き、平和のことや原子爆弾の被害について学びました。

初日は、実際に平和記念公園や原爆ドームを見に行き、資料館の中に入って8月6日の惨状や放射線による被害、被ばく者の魂の叫びなどを見たりしました。次の日には、式典の会場に参加し平和や原爆の被害について知るととてもいい経験になったと思います。

今回のバスツアーの中で一番心に残ったのは、朗読会でぼくが【弟】という詩を読んだことです。ぼくはこう思いました。「妹を大切にしていきたい」と。それから原爆で亡くなった人のためにも、この原爆の残酷さを次の世代にずっと伝えていき、亡くなった人のかわりに頑張って生きていかなければいけないと思いました。そしてこの思いがいつか叶うように、いつまでもきれいな空が見られるように、いつまでもみんなが幸せで生きていけるように、ぼくたちが平和を実現できるよう明日へと頑張って生きていき、目指していきたいと思いました。

この起きたことやみんなの願いを、明日へ未来へと伝え叶え、そしてつないでいこうと思います。



爆心地・島(しま)病院



原爆被災説明板

## 広島空に想いを馳せて

黒木 研一

この度の親子バスツアーで息子と共に初めての広島訪問をさせて頂きましたが、自身が8月6日生まれという事もありこの地で起きた歴史にいつかは向き合うべき機会があればとの思いが有りました。相生橋から記念資料館までのガイドで見た広島街並みは、観光都市に相応しく整備された綺麗な印象でしたが、当時も賑やかな街並みや人々の生活があったとお聞きし、それが一発の原爆で一瞬に人も物も破壊された被害の実相を原爆ドームが如実に物語っていると感じました。

資料館での展示物には当時の遺品や目を背けたくなる程の被害に遭われた方の実態が胸に突き刺さります。今年5月にG7サミットが開催された影響もあってか外国人来場者も多く見受けられ、世界からも改めて広島が平和を見つめ直す象徴であり、関心の高さを伺えました。

朗読会では、被爆体験と原爆詩を皆さんと目で見て・声に出して・想いを共有する事の大切さを息子共々に学ばせて頂きました。

翌日の記念式典は思いもよらず参加者席から拝見する事ができました。朝から広島空は快晴でしたが、78年前のこの日も暑く青く澄み渡っていたとお聞きしており、その日常が一瞬で奪われた事を想うとやるせない気持ちが駆け巡りました。今や私たちの国も戦争を知らない世代が大半で、世界は今でも紛争が絶えてないのが現実です。また核使用のハードルが下がりつつある今、核を使えば共々に共存できない現実も強く訴えていくべきかと思えます。地球環境に対しては協力できる先進国が、自国のエゴや利害で平和の取り組みには足並みが揃わない事に歯がゆさも感じます。

『被害者の会』武居さんが仰っていた「核の傘に収まってる平和は真の平和とは言えない」との言葉を痛感します。平和を享受した世代である私たちが果たすべき役割の時代に入ったと重く受け止め、世界平和を祈り行動して参りたいです。改めて参加させて頂き感謝申し上げます。



被爆したアオギリ

## 旅行について気付いたこと・経験したこと

常盤 海

このバスツアーに参加しようと思ったきっかけは、学校からもらってきた手紙の表紙が面白そうだったからです。

どんなことを経験したかということ、平和記念式典に参加したり、平和記念資料館で、げんばくのおそろしさやひがいの大きさなど、げんばくについてのすごさや、ホテルでげんばくを受けた人の悲しみがえがかれた詩を読んだりしました。平和記念資料館では、すごくこわい展示品もあったりしました。人混みの中を歩いていくのはむずかしかったけれどなんとか見ていました。

今、ロシアがウクライナをせめていて、すごく強いげんしばくだんを、ただただいかくのためだけに持っていて得があるのだろうか、と思いました。なぜなら、ロシアはげんしばくだんをいかくのために使うのはお金もかかるし、捨てた方がお金もかからないし、平和に近づくのに、なぜロシアはしないのだろうかと思いました。

ぼくは平和について、平和じゃなかったらいつも戦争が起きて、病院がたいへんになったり、げんしばくだんをロシアが落とすかもしれないし、人の生活に害をする兵きがたくさんおちてきたり、物の物価がすごい高くなっていったりするから、全世界の人がちゃんと平和にしようと思う世界が平和だと思います。

平和について自分ができることは、けんかとかをなくしたり怒ったりせずに、笑って楽しく生きることだと思います。

## ツアーに参加して思ったこと

常盤 蒼空

ぼくがこのツアーに参加しようと思ったきっかけは、小学生のころに一度戦争のことを学びに、広島に行ったけど、一回ですべて学びきれなかったし、何より戦争のことを学ぶのは、とても大切だと思ったからです。

実際にツアーに参加してみて思ったことは、広島だけでなく、自分たちが住んでいるこの西宮にも被害が少なからずあったことを知って、戦争は他人事ではないと思いました。

そして、広島に行き、一番印象に残ったことは、初めて参加した平和記念式典での、平和の誓いです。ぼくより小さい小学生や、岸田総理大臣という国のトップが集まって、宣言しているところを見ると、この平和記念式典はそんなに、重要なことだと思い、自分も真面目にこの式典に取り組もうと思いました。

次に、印象に残っているのは、平和記念資料館で見つけた原爆のい力を書き記した図です。それを見て、僕はやはりもう原爆を落としてはいけないと思いました。

今回の旅行で、僕が平和を維持するために大切だと思うことは、この広島でのことを後世に伝えて、二度とこんなことにならないようにすることです。僕は、戦争がおこらないように「助け合う」という考えをもって生きていきます。

## 親子で平和について考える機会をいただいて

常盤 望

まず、親子でこのような経験をさせていただいたことを感謝いたします。ツアーを企画頂いた西宮市人権平和推進課のみなさま、同行いただいたスタッフ、そして何より西宮市被爆者の会会長でいらっしゃいます武居さんにたくさんの感謝を送ります。

私は戦争は怖いものと学ぶことを避けてきたようなところがあり、原爆ドームや平和記念公園を訪れるのは初めてでした。また、被爆者や戦争体験者のお声を生で聴かせていただくのも初めてで、とても貴重な経験となりました。

現在の原子爆弾に比べたら、おもちゃのようなものと言われる当時の原子爆弾が一瞬にして多くの人の命も、町も建物も、そして木や虫や広島に生きている生命の多くを奪った事実を目の当たりにして、今生きている私たちは平和について心の底から向き合う必要があることを痛感しました。

現在、世界中に存在する原子爆弾をなくそうと多くの方が真剣に向き合い、尽力されていることを平和記念式典に参加し、今回のツアーを通して肌で感じることができました。また、78年の時が過ぎ、実際の体験をされた方がわずかとなっていること、二世三世がその想いを引き継いでいることを知りました。

「平和とは?」「広島・長崎への原爆投下が何を意味するのか?」「わたしたちはそこから何を学ぶべきなのか?」全人類、全ての人がそれぞれの心でこれらの質問に自問自答し、答えに基づいて行動することができたら、世界から、戦争や争い、奪い合いやいじめ、マウンティング、違いを認めない、がなくなると考えます。

今回、親子で平和についてどっぷり考える機会をいただき、家族内でも人を思いやることや優しさ、武力には武力が返ってくること、ではどうするかを話しました。また、今回の学びを自分自身が周りに伝えることで、さらに平和について考える輪が広がればいいなと思います。今回はこのような場を設けていただきありがとうございました。



被爆体験記の朗読会

## 広島県へ行って感じたこと

西尾 実咲

私は広島県へ初めて行きました。広島県に8月6日、爆弾が落ちたことしか知りませんでした。時間なんか全然わかっていませんでした。なにも勉強をしないで行ったので、バスの中で武居さんの話をメモを取りながら一生懸命耳を傾けました。そこで、何月何日午前午後何時何分に落とされたのかを知りました。武居さんやバスガイドさんの話を聞いていたらあっという間に広島へついた感じがしました。

原爆ドームでは、今は柵や植物があって見えにくかったですが、原爆ドームの中はそのまま残っている割れた破片が残っていました。それは、どれくらい大変な被害にあったのかを皆に伝えたいためにわざと残してあると思います。

平和記念資料館では、人が多く、見る時間が少なかったですが、絵や写真、動画などでどんだけ大変だったかというのがよくわかりました。一番驚いたのは、まず、皮膚が垂れ下がるほどの大やけど負った人の写真や絵。次に、服が着られないほどの破れです。

普段、私たちが旅行に行ったときに人が多いところは避けようと思うのですが、今回は、人ごみのすごい中座れて良かったと思います。何よりも、内閣総理大臣のいる場所に私たちがいるということはすごいと思いました。

バスツアーに参加して本当に良かったと思います。



式典を控えた広島平和記念資料館

## バスツアーに参加して

西尾 佳奈

バスツアーに応募させていただいたのは、私自身広島へ行ったことがなかったので、娘との2人の時間もなかなかとれないし、ぜひ行ってみたいな、という軽い考えでした。

出発当日、バスの中で被ばくの経験のある武居さんのお話を聞き、今まで「平和」について考えることもなかった私には衝撃的な内容ばかりで、娘と一緒にメモをとりながら食いつきながら聞かせていただきました。

「歴史」「戦争」というキーワードは学校で習った記憶がありますが、重視されてきたのは年号や場所など暗記するのみでした。が、本当に大切なことを自分自身考えたこともなかったことに気づかされました。

武居さんのお話や、朗読会がなければ、“世界遺産の原爆ドームかーすごいなー”で終わってしまっていたと思います。平和記念公園の地面には当時のがれきや遺骨が埋まっていることを聞いて、一步一步歩きながらも、色々な思いがめぐりました。どのような気持ちで亡くなっていったのだろうか、どのような気持ちで亡くなっていく人を見送ったのか。自分の娘だったら、友人だったら…当時自分が広島にいたら何ができたのだろうか、何をしていたらいいのか、想像もつきませんでした。

平和記念資料館にはたくさんの写真や当時のものが展示されており、なんと表現したらよいかわからない感情になりました。当時必死に生きた方々の証として私たち世代が戦争のない世の中にしていかなければならないと、強く感じました。

貴重な経験をたくさんさせていただき本当にありがとうございました。



広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式の会場へ



## 親子広島バスツアーに参加して

坂東 三嘉

原爆資料館では原爆が落ちる瞬間の映像を見て、町全体が一瞬で砂になってしまうことをしりました。他にもつぶれた自転車や焦げた金庫などがあり、原爆で色々なものが壊れたり焼けたりしていました。

被爆体験を聞いて、せっかく助かったのに白血病やがんになったりして、かわいそうだなと思いました。生き延びることができたのに、喉が渇いて水を飲んだせいで死んでしまった人もいて、原爆は悲しいことがたくさんあると思いました。さらに、子どもなのに働かされて、戦争に全く関係のない子どもが巻き込まれて、自分だったらいやだと思いました。色々な事情で戦争が起こったのだろうけど、戦争はいやだと思いました。

バスツアーに参加することになってから鶴を折りました。祖父から佐々木禎子さんが、薬の入っていた紙で折り鶴を折っていたと教えられました。禎子さんは原爆で被爆したことが原因で、白血病にかかり12歳で亡くなったそうです。禎子さんは病気が治りますようにと思っていたのかなと思いました。私も佐々木禎子さんの像に折り鶴を捧げました。像の前には折り鶴がたくさんささげられていました。原爆が落ちなかったら病気にかかることもなかったし12歳で亡くなることもなかったのです。二度と戦争も原爆も起こしたり、落ちたりして欲しくないと思いました。



広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式 内閣総理大臣挨拶



## 広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式 こども代表 「平和への誓い」

### 広島バスツアーに参加して

坂東 総子

小学4年生の長女と一緒に親子広島バスツアーに参加させて頂きました。私は子ども時代を広島市内で過ごしました。そのため小学生の頃から平和学習は積極的に受けており、平和記念公園や原爆資料館は何度も訪れてきました。ロシアからウクライナ侵攻を受け、母として平和について子ども達に何か伝えたいと思い一度原爆資料館に連れて行ったことがあります。8歳の長女は黙って残された遺品と写真を眺め、その時は声のかけ方も分からず、ただ一緒に見て少し感想を少し言い合い終えたように思います。今回のツアーへの参加は長女からの申し出でした。長女は広島に馴染みもあり平和学習という興味の程度はわかりませんが、私自身としては一緒に平和について考える良い機会を頂けたと思い参加させて頂きました。100組を超える応募があった中参加できることになったとお聞きし、平和に対する世間の意識は高まっているのだと感じました。

原爆資料館では原爆投下の映像や前後の街並みや人々の生活の変化などが、言葉が分からない子どもや海外の方にも目に見てわかるよう展示されていました。子どもの時に感じた感情を思い出すことはできませんでしたが、大人になった自分の目を通してみると生活していた家や仕事場、大切な子ども達が原爆の一投で一瞬にして焼け払われた悲慘さに、当時の方々の気持ちを思うと涙があふれてしまいました。また、多くの方々の被爆体験や体験記朗読を聞かせて頂きました。原爆は大切な家族や親族、家や思い出を一瞬にして奪い取るだけでなく、残された家族やお孫さんまでも苦しみを残す事実、何のための誰のための行為なのだろうと言えない思いでいっぱいになりました。戦争、特に大きすぎる代償を伴う原爆は使用してはならないのです。

今回の事業に参加させて頂き、平和について改めて考える貴重な機会を頂きました。今の自分自身は子育てや仕事など日々の生活に追われ活動できる時間はありません。しかし、今回、子どもと平和について知り考える機会を頂き、まずは戦争や原爆の悲慘さを忘れないことが大切なのではないかと感じることができました。そうすることで戦争はいけなく、他国の戦争にも気を向け他人事ではないと子ども達に伝えることができればと思っています。今後も関連するテレビ番組を子どもと見たり、本を読んでみたり、生活の中で一緒に考える時間を持つことで平和について考える時間を大切にしていきたいと思っています。

皆様お話ししやすく有意義な時間を過ごすことができました。関係者の皆様、酷暑の中お気遣いやご配慮ありがとうございました。

## バスツアーに行って

堀下 侑祐

ぼくは6年生のときに修学旅行で広島に行ったので2回目だけど、前とはちがって行くたびに新しい発見があると思いました。資料館も人は多かったけど、母と行くと見たり感じたりすることは違っていました。

ぼくは今中学生だけど、戦時中の中学生は勉強なんかしないで学徒動員で建物疎開に行っていたりして本当に悲しいと思います。今のくらしがあたりまえではなくて、とても平和だということに感謝したいです。核兵器保有や戦争がない世界にしたいです。2日間ありがとうございました。みなさんこれからも元気で。

## 親子広島バスツアーに参加して

堀下 望美

今まで修学旅行などで広島を訪れたことがなくて、このようなバスツアーでもないで人生で絶対に行くことはないだろうなと思い、少し参加には後ろ向きな息子に声を掛けました。

息子は昨年修学旅行で広島に行っており、平和を学ぶ以前に、原爆のおそろしさに触れて怖かったのだと思います。でも毎年テレビで広島平和記念式典を見ていて、私も少しだけでも8月6日に参加させてもらえるなら良い経験になると思い応募しました。

道中車内では原爆被害者の会の武居さんのお話を聞かせていただき、ご自身のことやご家族の被爆体験など想像しながら聞いていると胸が苦しくなることばかりでした。戦争を知らない世代ですが知ろうとすることはできます。「平和をつくるのはとてもたいへんなことですが壊れるのは一瞬」ということばに心がうたれました。

“戦争と平和”として学ぶとき、「平和」については詳しく学校で学びますが「戦争」については小、中、高いずれも3学期に習うようで、近代史は一番大事なのに走り去っていく印象があります。

今回のバスツアーは、武居さんのお話はもちろん、記念公園での原爆ドームや資料館、折り鶴の奉納などを通した学校では学ぶことのない本当に良い機会となりました。一番印象に残っていることは被爆体験記の朗読会です。耳で聴いて心で聴いて目で見ると・・・自然と涙があふれました。

原爆のおそろしさ、核兵器の恐さを学び、広島や長崎に落とされたのはおもちゃ位の大きさだったとかいわれていますが、あの一発、たかが一発で大事な大事な未来ある子ども達がたくさん犠牲になったことが今回いつも考えさせられました。最後になりましたが、人権平和推進課の方々にも大変お世話になりました。貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。



平和記念公園内の慰霊碑めぐり

## 家族で平和学習

山口 璃暖

私の学校では修学旅行に広島へ行きます。

原爆ドームも資料館も行くと聞きましたが、先にママとお兄ちゃんと一緒に学べる機会ができて良かったです。

資料館の写真は怖かったです。私より小さい子がたくさん写っていて悲しい気持ちになりました。

夜の朗読会では朗読をさせてもらいました。

被害者の人の気持ちになって考えるとつらかったです。家族がいなくなってしまった人は本当に可哀想です。私は家族と毎日一緒に居れる事は当たり前だと思っていましたが、本当に幸せな事なんだなと思いました。

6年生になったら修学旅行でまた行きますが、その時は友だちと一緒にしっかり勉強して平和について考えていきます。

世界から戦争がなくなり、みんなが平和な毎日を過ごせるようになる事を願っています。ありがとうございました。

## 家族で平和学習

山口 潤透

ぼくは小学校の修学旅行で広島へ行き原爆ドームや資料館に行った事があるので、2回目の見学でした。学校で行った時とまた違う気持ちになりました。家族と一緒に見て回ったからかなと思います。

親がいなくなってしまった子ども達、子どもがいなくなってしまった親達、考えただけで悲しくて怖い気持ちになりました。

朗読会では悲しい詩がたくさんあり涙が出そうになりました。

「平和って創るのは難しいけど壊すのは簡単。自分達の世界は自分達が創るもの。平和は創られるものじゃない、創るもの。」という言葉がとても印象に残っています。

世界が平和になりますように。

親子広島バスツアーに参加できて良かったです。

ありがとうございました。

## 家族で平和学習

山口 瑠海

修学旅行で広島に行った中学1年生の息子と、同じく修学旅行で広島に行く予定の娘と3人で参加させていただきました。

平和への勉強を家族でできるすごくいい機会だと思ったので応募しました。

普段聞くことのできない被爆体験のお話、原爆ドームや平和記念公園の見学、資料館での目を背けたくなるような写真達、ホテルでの朗読会、平和記念式典参加、どの時間も勉強になり考えさせられる時間でした。

私たちが参加している事を知っている親戚達が式典の中継をテレビで見ている、最初から最後までしっかり見る機会ができて良かったと言っていました。

ツアーから帰ってから集まり朗読会での作文集などを見せながら話しもしました。

平和についてこんなにも家族で考え学べる機会は無かったと思います。

この親子広島バスツアーに参加できて本当に良かったと思います。

本当にありがとうございました。

この経験や感情をいつまでも忘れず、私たちが伝えられる事は伝えていきたいです。



原爆死没者慰霊碑

令和5年度 親子広島バスツアー行程表

8月5日(土)		8月6日(日)	
8:30	西宮市役所前の「平和非核都市宣言碑」の前で出発式	6:00	朝食
9:00	出発(バス) ↓ ↓ 高速道路 ↓	6:40	出発(バス) ↓
14:30	広島到着 折り鶴奉納 平和記念公園 平和記念資料館 など見学	7:00	平和記念公園に到着
17:00	平和記念資料館 出発	8:00	平和記念式典に参列
17:30	宿舎に到着 (広島ダイヤモンドホテル))	9:00	式典終了 出発までは自由行動 【原爆被害者の会の方に平和記念公園内の碑の説明等をしていただきました(希望者のみ)】
18:00	夕食	13:00	集合・出発(バス) ↓ ↓ 高速道路 ↓
19:00	地元ボランティアによる出前朗読会 原爆被害の概要 DVD 上映 被爆体験記 原爆詩の朗読 など	18:30	西宮市役所前に到着・解散
20:30	終了		







## 平和非核都市マーク



平和非核都市 西宮

宣言を記念して昭和 59 年 (1984 年)4 月に一般公募し、7 月に「平和非核都市マーク」を制定しました。地球を二羽のハトで包み込み、恒久平和への願いを表現しています。

## 平和非核都市宣言

青い空、緑の大地、そして、おだやかな暮らしは、  
わたくしたち西宮市民のみならず、  
平和を愛するすべての人の願いです。  
そんな平和への願いとはうらはらに、  
世界はおろかにも人類を何十回も滅ぼすほどの  
核兵器を蓄積しました。  
核戦争に未来はありません。  
恐ろしい核兵器をつくってはならないし、  
持つてもいけないし、持ち込ませてもなりません。  
わたくしたちは、  
世界中に核兵器の廃絶を強く訴えるときともに、  
平和を愛する社会をはぐくみ、築くことを誓い、  
平和非核都市をここに宣言します。

昭和五十八年（一九八三年）十二月十日

西宮市